

中西部太平洋カツオ・マグロ資源。大丈夫か？

—水研センター平成24年度「国際漁業資源の現況」から—

水産総合研究センターは、国際的な資源管理が必要なマグロ類、サケ・マス類などの漁業資源41種に関し、最新の資源の水準・動向・管理措置等を取りまとめ平成24年度「国際漁業資源の現況」として公表した。近年、急激に増大している中西部太平洋のカツオ漁獲量は、今後も増大を続ける漁獲に耐え続けられるのか？ また、過剰漁獲が懸念されている中西部太平洋メバチの資源状況はどうか？ マグロ類のうち、資源水準が低位にあると評価されたクロマグロ、ミナミマグロとともに、その要旨を抜粋紹介する。

中西部太平洋カツオ

2011年の中西部太平洋におけるカツオの総漁獲量は155.7万トンで、全太平洋の漁獲量183万トンの87%を占める。漁法別漁獲量（暫定値）では、まき網が77%、さお釣りが約13%、その他の漁業が10%となっている。1970年代まで40万トンであった中西部太平洋における漁獲量は1990年代には100万トン前後に増大、さらに2002年には120万トン、2009年には180万トンに達したが、2011年には、156万トンに減少している。現在、資源は中程度に漁獲され、漁獲死亡率は持続的である。しかし、赤道海域における高い漁獲がカツオ資源の分布の縮減を発生させている。近年の漁獲死亡率及びMSY（最大持続生産量）関連資源量指標の急激な変化もあり、漁獲努力量の増大はモニターされるべきである。まき網の更なる漁獲努力量は、カツオの長期的漁獲の観点からは僅かな増大しかもたらさないだけでなく、メバチやキハダの漁獲死亡率の増大も引き起こす。中西部太平洋における総漁獲努力の管理においては、この点を認識すべきである。

中西部太平洋メバチ

太平洋におけるメバチの漁獲量は1980年代初頭のおよそ12万トンから徐々に増加し、2000年以降25万トン前後で推移している。2011年の太平洋メバチの漁獲量は最近10年間で最低の235,266トンであり、そのうち中西部太平洋での漁獲量は、159,479トン（太平洋全体の約68%）であった。中西部太平洋メバチのMSY（最大維持生産量）は、74,993トンと推定され、近年の漁獲量はそれを大きく上回っている。近年の漁獲レベルは近年の高い加入量を仮定しても、長期間維持することはできないと結論される。WCPFC（中西部太平洋マグロ類委員会）は、2013年から2017年の5年間でメバチの過剰漁獲を解消し、資源回復を行う計画を2013年中に作成することを決めている。

太平洋クロマグロ

最近（5年間）の世界の漁獲量は、約18,000トンから25,000トン。資源動向は

減少。資源の状態は、2010年の親魚資源量は、1952-2010年の親魚資源量に対して最低水準に近い。関係の地域漁業管理機関 WCPFCとIATTC（全米熱帯まぐろ類委員会）の管理措置の確実な実施及び日本の追加の漁獲制限が継続すれば、中長期的には資源は増加が期待される。

西大西洋クロマグロ

最近の世界の漁獲量は、1,600トンから2,000トン。資源動向は、親魚資源が低位で増加傾向。加入尾数は低いレベルで安定。ICCAT（大西洋まぐろ類保存委員会）が2012年の年次会合で定めた漁獲枠1,750トンを維持すれば、2003年の卓越年級群が親魚資源量を下支えし、将来の資源量の増加が見込まれる。

ミナミマグロ

最近の世界の漁獲量は9,296トンから11,395トン。親魚資源量は近年横ばい、未成魚は増加しており、親魚資源量も今後、増加の可能性が高い。